

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年2月16日 (2017.2.16)

【公開番号】特開2016-175913(P2016-175913A)

【公開日】平成28年10月6日 (2016.10.6)

【年通号数】公開・登録公報2016-058

【出願番号】特願2016-78990(P2016-78990)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/10 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2017.01)

A 6 1 K 47/50 (2017.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/705 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 P 21/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 37/02 Z N A

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 47/10

A 6 1 K 47/34

A 6 1 K 47/48

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 0 5

C 0 7 K 14/705

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 P 21/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月10日 (2017.1.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

個体における血管新生を低減するための抗血管新生剤を調製するための、改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 の使用であって、前記改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 がヒト又はラット C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 に由来し、親水性と疎水性とを交互に繰り返す少なくとも 5 個のアミノ酸を有する 2 つ

のセグメントによって形成される シートと、逆平行の折り畳みと、内向きの疎水性表面と、外向きの親水性表面とを含む、使用。

【請求項 2】

前記個体における血管新生が、腫瘍成長、アテローム性動脈硬化症、糖尿病性網膜症、加齢性黄斑変性症及び水晶体後線維増殖症から選択される障害に関連する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

前記改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 が、配列番号 3、配列番号 6、配列番号 9、配列番号 10 及び配列番号 11 からなる群から選択される、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 4】

前記抗血管新生剤が哺乳動物細胞のアポトーシスを誘導する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 5】

前記抗血管新生剤が内皮細胞のアポトーシスを誘導する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 6】

配列番号 3、配列番号 6、配列番号 9、配列番号 10 及び配列番号 11 からなる群から選択されるアミノ酸配列を有する、改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1。

【請求項 7】

ポリエチレングリコール (P E G) 部分を更に含む、請求項 6 に記載の改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1。

【請求項 8】

グリカン部分を更に含む、請求項 6 に記載の改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1。

【請求項 9】

請求項 6 に記載の改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 を含む医薬組成物。

【請求項 10】

請求項 6 に記載の改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 をコードする核酸。

【請求項 11】

請求項 6 に記載の改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 をコードする核酸を酵母中において発現させるステップを含み、前記抗血管新生剤が発現の際にグリコシル化される、改変されたヒト又はマウス C D 2 ポリペプチドのドメイン 1 のアミノ酸セグメントを含む抗血管新生ポリペプチドの調製方法。